

訪問介護ステーション 第23回 運営推進会議議事録

日時	2022年 3月 17日 (木) 11:00-12:00		
場所	自施設3階 会議室2		
司会	寺崎玲子	書記	長尾敏
出席者 (敬称略)	あいわ診療所 (伊藤成規) アピスファーマシー (多田満里奈) アピスファーマシー-上新田店 (小川智美) ケアセンター-奏 (生田久美子) 中央地域包括 (井口牧子)		
	有限会社みらい (岡田牧子) パナソニックセンター (北川篤子) ウェル清光会 (細川和孝) 宝塚清豊苑 (山田智史) 豊中市役所長寿政策課 (武部)		
	緑地包括 (上農朱美、井上天希、森舞子、田中ゆかり) ケアハウス花みずき (長尾雅子) ケアセンター-あいわ (土本美子) ケアセンター-緑地豊中南 (茶谷恵子)		
	あいわ訪問介護ステーション (寺崎玲子、大谷ゆかり、細川典子、山田智子、三代爽子) 訪問介護ステーションあいわ (長尾敏、藤井和代、笠原順子)		
1.参加者紹介			看護師9名
2.2020年度下半期の実績報告			PT 3名
●契約者数の推移			OT 2名
契約者数は年間平均5.2名			ST 1名
介護訪問件数月平均 118,5件、看護訪問件数月平均 16.5件			
●新規・終了の内訳			4.介護職員の年間研修計画
8月に新規1件 9月終了1件、11月新規1件、終了2件			●年間必須研修のほか、調理実習、事例検討、ベッド上での洗髪など
12月新規2件、終了1件、2月新規1件			各月3回、全員が受けられるようにしている。
●年間の割合			5.個別研修
終了理由は看取りが全体の6.2%、他事業移行が3.1%			●サービス提供体制加算算定の要件に当たる個別研修は各サ責が
90.8%の方が継続となった。			それぞれの研修計画を作り、毎月行っている。
●自社プラン率			年間研修、個別研修ともオンラインでも行えるように資料等も工夫している。
自法人=92.3%、他事業所=7.7%			6.事故報告、ヒヤリハット報告
●契約者地区別分布			●事故報告なし
寺内地区が最も多くなり、次いで浜			●ヒヤリハット数推移
寺内、浜、庄内は継続となった。			ヒヤリハット様式を変更したことで月平均83件のヒヤリハットの提出があった。
●新規獲得のための動き			大きな事故につながらないよう今後も続けていく。
料金表付きのチラシを更新、営業活動に努めている。			
他事業所からの新規の獲得にもつながった。			7.事例報告3事例
3.職員状況			パワーポイント参照
管理者1名			
サービス計画作成者は7名 (オペレーター兼務)			
登録ヘルパー8名			
			1
			2

<p>8.地域との交流</p>	<p>本当にありがたい制度だと感じている。</p>
<p>●社会福祉法人として行っている地域との交流の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/7に「あいの集い」を開催。 ・毎月実施のこどもひろば ・1/22に行われた寺内小学校での防災訓練 ・毎月の子育て支援「うりばー」 ・月2回実施している認知症カフェ「ほっと愛カフェ」 <p>それぞれの活動中の写真を交え紹介した。</p>	<p>井口氏：融通の利いた訪問と家族から言われていたがどのような追加訪問だったのか。</p> <p>長尾： 受診時間と訪問時間が重なった時に、時間を変更し訪問している。</p> <p>細川氏：事例にもあったが、看護との連携はとても大切だと感じている。豊中市で定期巡回を展開しているが、ターミナルを受けてもらえるかとの問い合わせが多い。人員の強化も検討している。</p> <p>寺崎： ケアマネージャーへのアプローチは苦労があったか。</p> <p>細川氏：定期巡回自体の浸透がまだまだ薄いのかと感じている。</p> <p>自法人と他事業所のプラン率は半々程度。定期巡回の説明を行える場所を作っていないといけないと思っている。</p>
<p>9.感染症対策</p> <p>●手指消毒用アルコール、フェイスシールドやゴーグル プラスチックガウン、手袋を装着し訪問 感染制御実践看護師を迎え、感染対応のPPE（個人用防護具）の正しい着脱手順の研修会に参加 2月には全職員対象に全体研修会が行われ、毎日各部署が実施している次亜塩素酸ナトリウムでの感染防止のための環境整備の研修で正しい知識を再確認している。</p>	<p>寺崎： 決まった看護ステーションが何か所があるのか。</p> <p>細川氏：携帯型で行っているため、現在4か所のステーションと契約済。</p> <p>武部氏：市内定期巡回の事業所が少なく、実際に利用者の事例に触れることもほばない中で、訪問のリズム、状態等よくわかった。</p> <p>多田氏：居宅療養管理指導を積極的に取り入れてもらえるようにしたい。</p> <p>伊藤： 臨場感があってよい事例になったと感じる。家族の方の看取りも穏やかに行うことができ、よかったと思う。定期巡回が今後、もっと広がっていくことに期待している。コロナ禍でもあり専門職としての意識を持ち訪問していることで、訪問系からの感染が広がるということもなく、意識の高さを感じている。</p>
<p>10.自己評価・外部評価</p> <p>ホームページに掲載</p>	<p>まだまだコロナ感染については油断はできないが、感染に注意しながら利用者、ご家族の満足度を上げていけるようなサービスを行っていく。</p>
<p>11.今後の活動</p> <p>今後も営業活動は続けていき、事業者連絡会などに参加し、定期巡回の良さや便利さなどを伝達していこうと考えている。</p>	<p>人手が少ない中、情報の交換等を行い、横のつながりを大切に事業を展開して行ってほしい。</p> <p>長尾雅子： 定期巡回の件数が伸びてこないことに対して議論もされる中、ケアマネージャー地域包括に向けて、アピールできるようにしてもらえればと思う。</p>
<p>12.質疑応答</p> <p>岡田氏：事例3の利用者は朝夕の排泄介助でまかなえているのか。</p> <p>長尾：ポータブルも使える方なので訪問時に陰洗、リハバン交換など行っている。</p> <p>岡田氏：事例1、事例2で看護が特別指示書で訪問しているが定期巡回ではそのような使い方もできるのか。</p>	<p>看取り、ターミナルの方だけではなく、地域の高齢者には独居、認知症など見守りの必要な方も多くおられる。</p> <p>地域の事業所、定期巡回の事業所等とも横のつながりを強め、情報共有しながら、来年度の活動も頑張っしてほしい。</p>
<p>細川：事例1では一日3回ヘルパーが訪問し、家族からも安心との声が聞かれる中状態等も刻々と変わり、その報告を受けながら看護が訪問することは</p>	<p>次回 2022年 10月 開催予定</p>
<p>3</p>	<p>以上 4</p>